



乳幼児期の非認知能力についての意識および取り組みに関する調査 —園・保育者調査 集計結果（速報版）— ダイジェスト

東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター
令和3（2021）年1月

1. 調査の概要

東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）は凸版印刷株式会社と共同し、幼児の非認知能力を育成する保育実践の研究を行っております

この調査は、その一環として、乳幼児期（0～6歳）のお子さんを持つ保護者の皆様と、保育・幼児教育に携わる園（施設）の先生方・職員の皆様を対象に「乳幼児期の非認知能力についての意識および取り組み」の実態について把握することを目的として実施いたしました

調査は2020年9月～11月にかけてWeb調査形式で行いました
保護者を対象とした調査では計1,769件、園・保育者を対象とした調査では計409件のご回答を頂きました

調査にご協力くださった皆様に深く御礼申し上げます

本資料は、**園・保育者を対象とした調査**の報告書（速報版）
のダイジェストです

2. 調査の目的

これからの保育・幼児教育において、「非認知能力」を含む乳幼児期の多様な心の育ちをどのように支えることができるのか検討するための根拠となる材料（エビデンス）を広く社会で共有するために、乳幼児期（0～6歳）の子どもの保育・幼児教育に携わる園（施設）の運営者、園・施設長、保育士・教諭の意識や考え、取り組みの実態について把握すること

3. 調査の方法

【時期】 2020年9月～11月

【対象】 保育・幼児教育に携わる園（施設）の運営者、園長・施設長、保育士・教諭、職員

【手続き】 Googleフォームを利用したWeb調査形式による質問紙調査

- ・ 機縁法による回答の依頼を行い、得られた回答は計409件でした
- ・ 本報告書では、収集された409件の回答全てを集計対象としました

※回答者の所属する園（施設）の特定や紐付けは行なっておりませんので、同一園（施設）に複数の回答者が所属しているという可能性に留意してください

4. 倫理的配慮

【個人情報の保護と情報の取り扱い】

アンケートフォームの冒頭にて、①匿名のアンケートであり、個人を特定するような情報は収集されないこと、②本調査の結果は、東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）のWEBページ（<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/>）に掲載し、その他の学会・論文やシンポジウムで発表する可能性があること、③データはこの研究成果の発表後少なくとも10年間、東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）内で保存すること、について記載しました

【回答の任意性】

アンケートフォームの冒頭にて、①このアンケートへの回答は任意であり、答えたくない場合は回答を止めても良いこと、②回答を途中で止めたからといって不利益を被ることはないこと、について記載しました

【その他】

この調査は東京大学の倫理規定に則って実施するものであり、東京大学倫理審査専門委員会および教育学研究科長の承認を得て調査を実施しました

5. 調査の内容

- （１）回答者自身の基本情報
- （２）回答者が所属する園（施設）の基本情報
- （３）「非認知能力」に関する理解・重視度と園での研修や活動の取り組み
- （４）子どもの資質・能力についての意識
- （５）「非認知能力」に含まれる5つの資質・能力についての重視度や取り組み

表 1. 今回の調査で取り上げた18の資質・能力

認知能力 （児童期以降の各教科の学力）に関連する力	(1) 文字を読んだり書いたりする力
	(2) 言葉で伝えたり聞いて理解したりする力
	(3) 数，図形，記号などを使ったり理解したりする力
	(4) 理科や科学に関する知識と理解力
	(5) 社会の仕組みや地理・歴史に関する知識と理解力
	(6) 英語など外国語の語学力
	(7) プログラミングなど情報処理に関わる力
	(8) からだを上手に使うことができる運動能力や健康に資する体力
	(9) お絵かきや音楽などの表現力・芸術的感性
非認知能力 に関連する力	(10) 自分自身を好きだと思える心（ 自尊感情 ）
	(11) 物事に興味・関心を持ち，自分から進んで取り組む力（ 興味・内発的動機づけ ）
	(12) 自分にはできないと決めつけず，自信をもって取り組む力（ 自己効力感 ）
	(13) 物事を最後までやり抜く粘り強さ（ 忍耐力・持続性 ）
	(14) 相手の気持ちを読み取ったり，自分の気持ちを上手に表現したりする力（ 感情知性・EI ）
	(15) 困っている人に共感したり，助けてあげようとしたりする思いやりの心（ 共感・向社会性 ）
	(16) 大切な目標のために目先のやりたいことを一旦がまんしたり，固執せず柔軟に対応したりする力（ セルフコントロール・自制心 ）
	(17) 生活習慣や社会的ルール，礼儀正しさを守ろうとする心（ 規範意識・道徳性 ）
	(18) 他の人と協力して何かをやり遂げる力（ 協同性・協働性 ）

注）表中の（ ）内は関連する非認知能力を示します

6.1. 回答者の年齢・性別

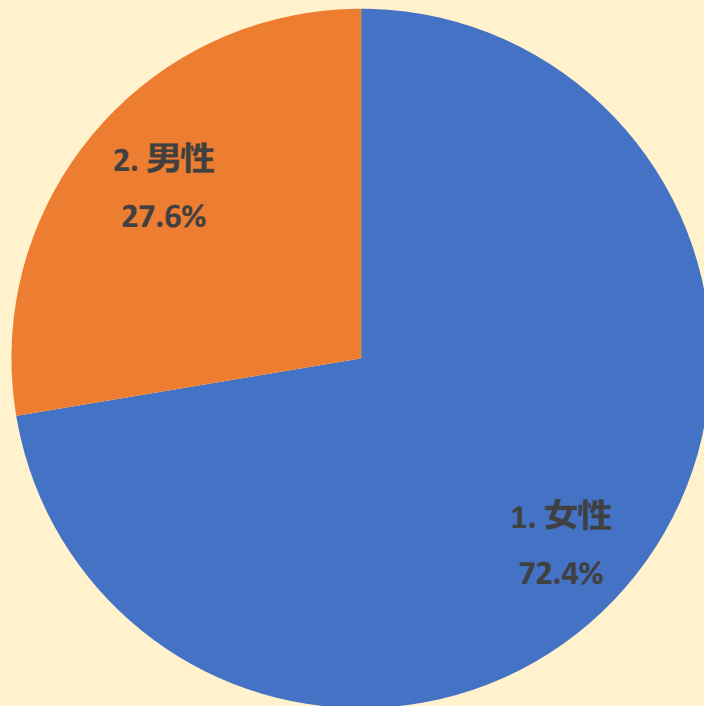


図 1. 回答者の性別 (%)

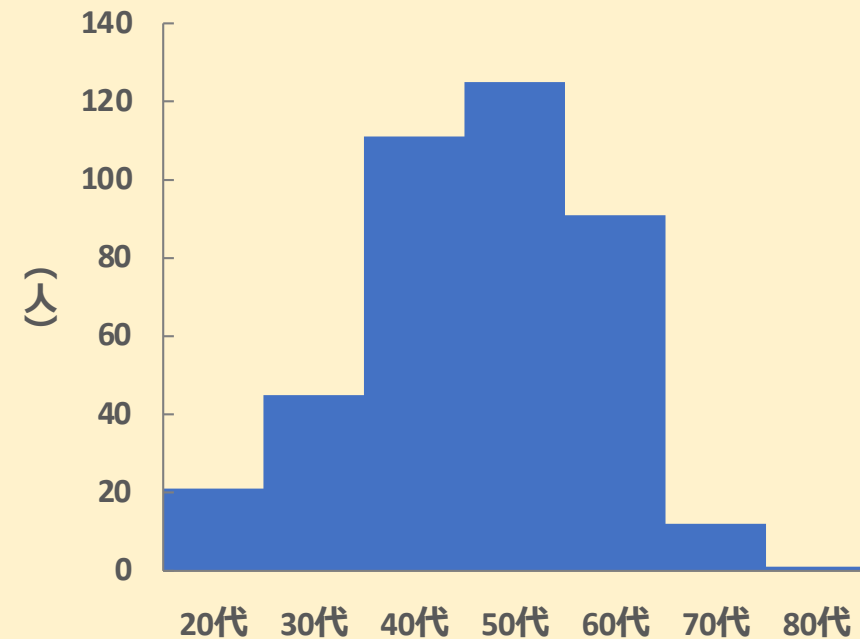


図 2. 回答者の年齢

回答者の人数：409名（女性296名，男性113名）

回答者の平均年齢：50.9歳（SD=11.5，レンジ21～80歳，回答なし3名）

6.2. 回答者が所属する園（施設）の種別

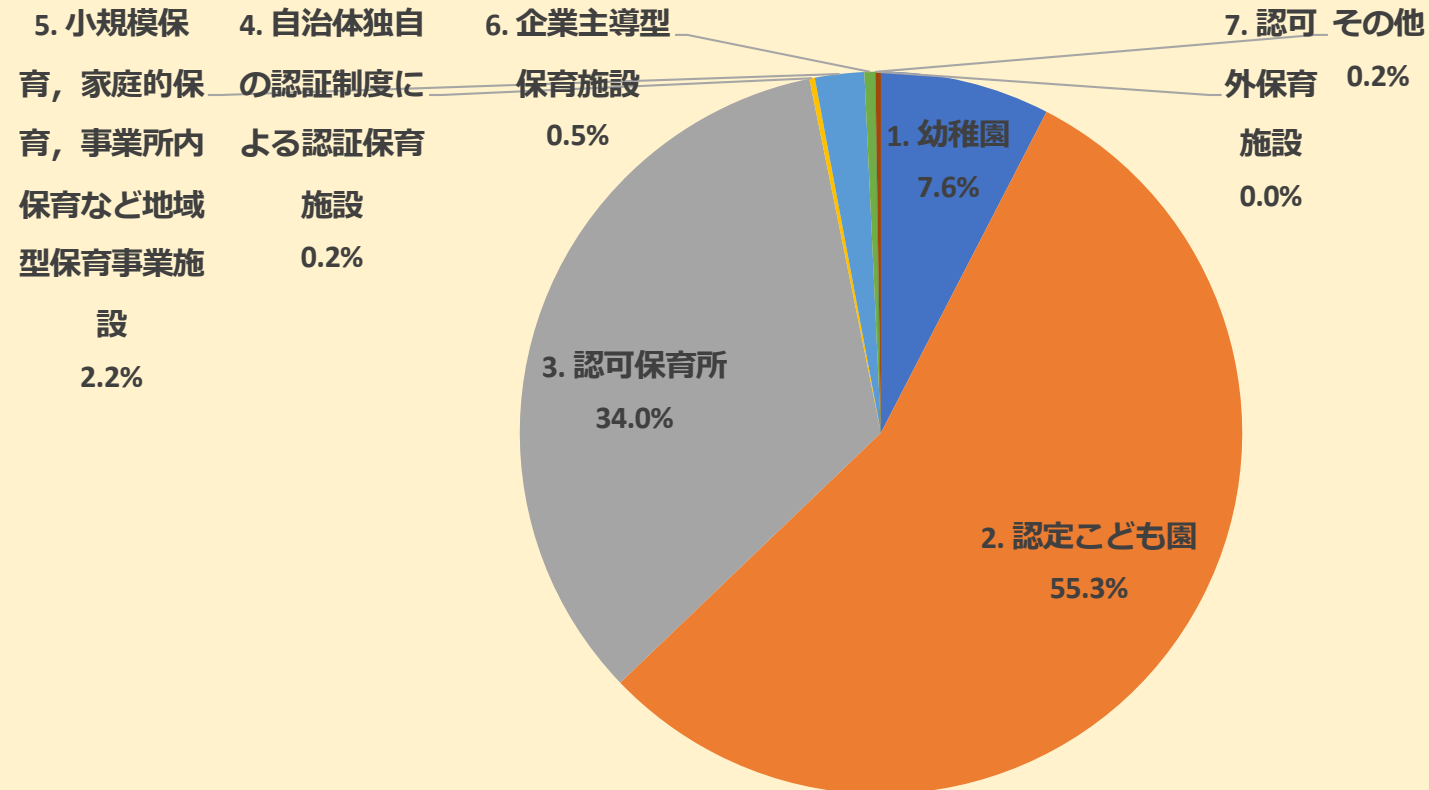


図 5. 所属する園（施設）の種別 (%)

園（施設）の所在地域：42の都道府県

園（施設）の種別：多い順に「認定こども園」（55.3%）／「認可保育所」（34.0%）／「幼稚園」（7.6%）でした

6.3. 回答者が所属する園（施設）の設置主体

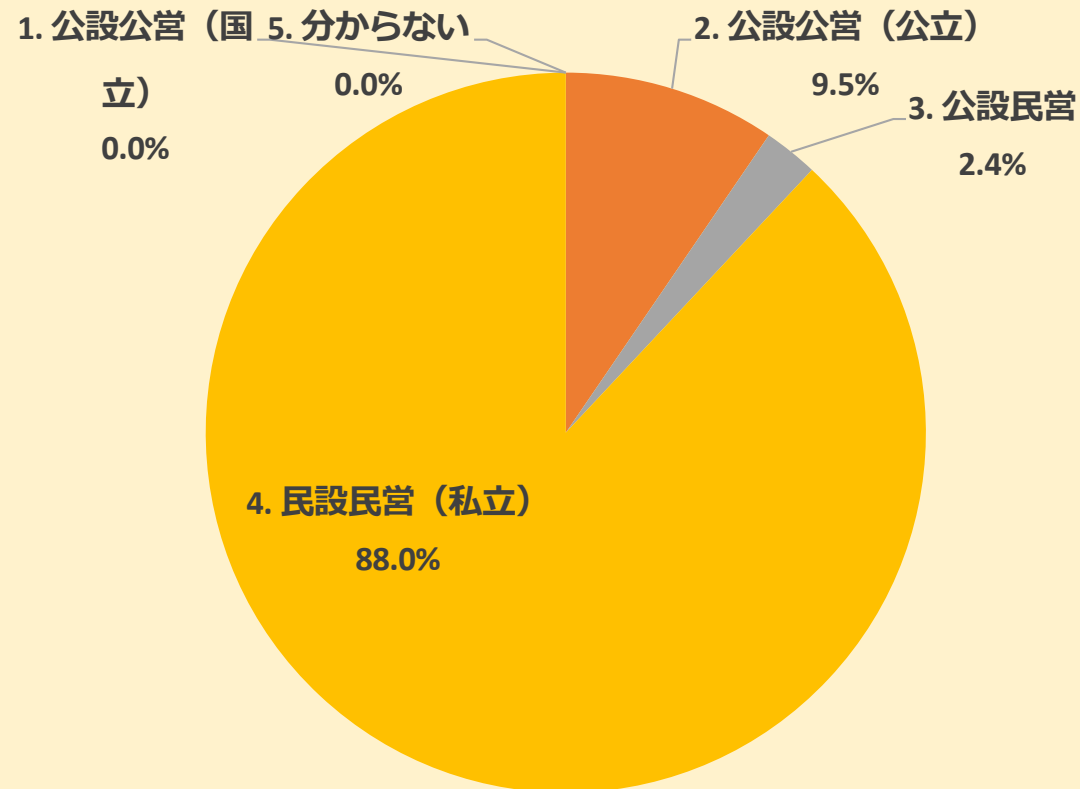


図 6. 園（施設）の設置主体 (%)

注) 「4. 民設民営（私立）」には学校法人, 社会福祉法人, 宗教法人, 企業を含みます

園（施設）の設置主体：多い順に「民設民営（私立）」（88.0%）／「公設公営（公立）」（9.5%）／「公設民営」（2.4%）でした

6.5. 回答者の園（施設）での役職

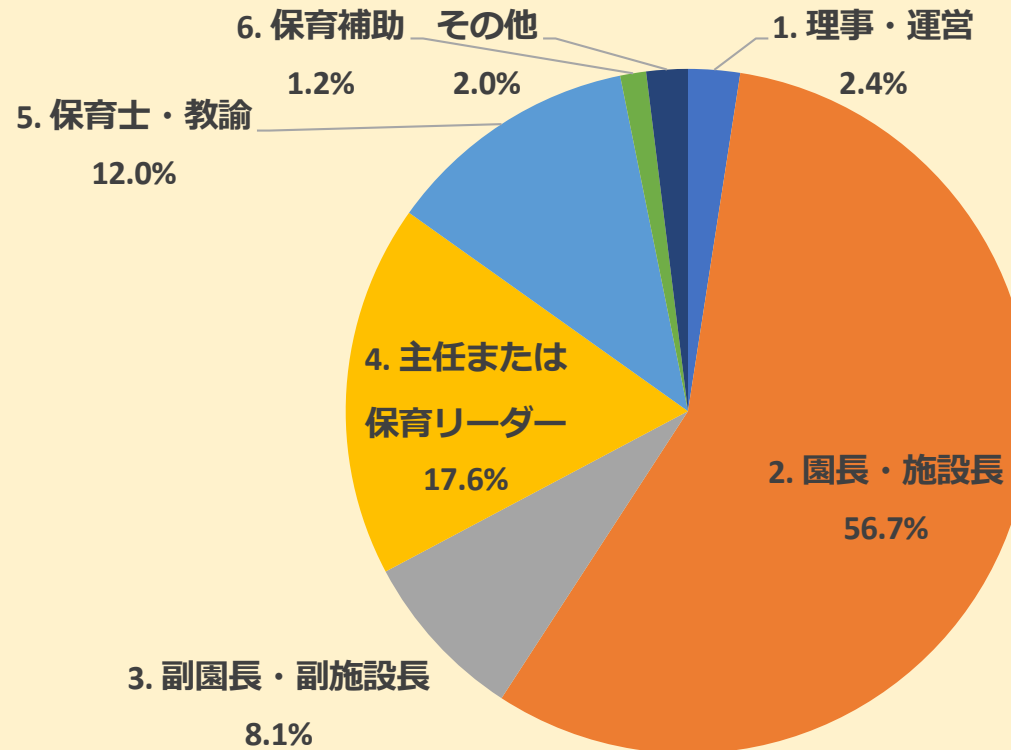


図 7. 回答者の役職 (%)

注) すべての回答者への質問 (N=409)

回答者の園（施設）での役職：多い順に「園長・施設長」（56.7%）／「主任または保育リーダー」（17.6%）／「保育士・教諭」（12.0%）でした

6.6. 回答者の担当クラス

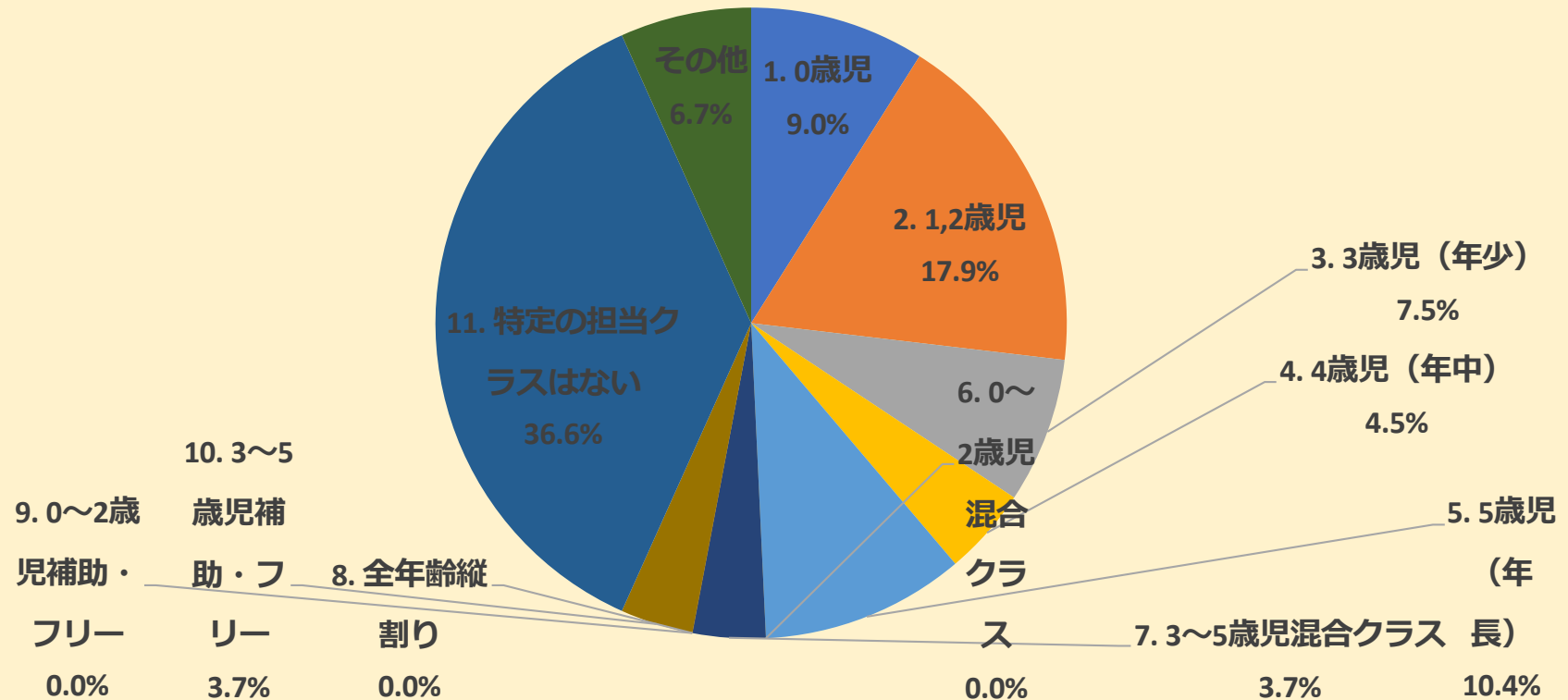


図 8. 回答者の担当クラス (%)

注) 理事・運営, 園長・施設長, 副園長・副施設長以外の役職の回答者に対する質問 (N=134)

担当クラス：多い順に「特定の担当クラスはない」(36.6%) / 「1,2歳児」(17.9%) / 「5歳児（年長）」(10.4%) / 「0歳児」(9.0%) でした

7.1. 「非認知能力」についての理解

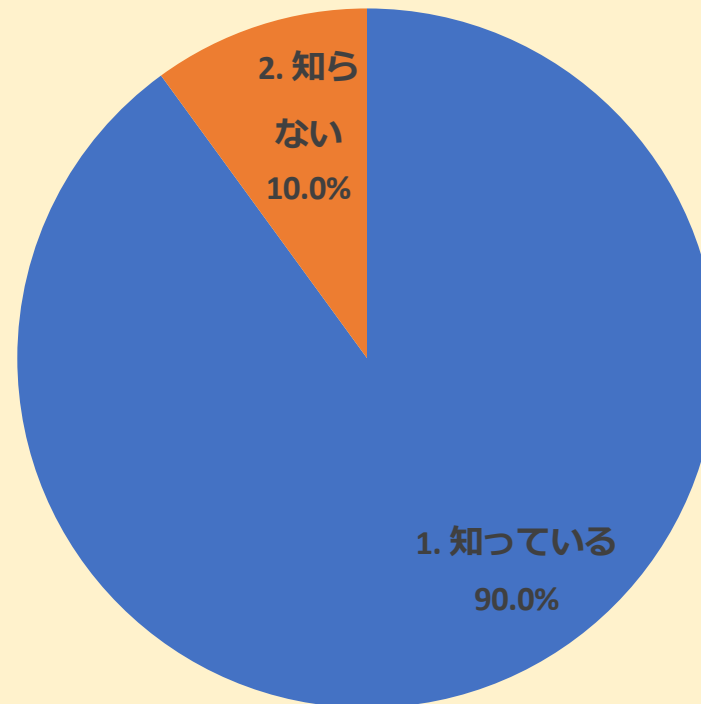


図 9. 「非認知能力」という言葉をご存知ですか？ (%)

注) すべての回答者への質問 (N=409)

「非認知能力」という言葉を「知っている」(90.0%)という回答が「知らない」(10.0%)よりも多くみられました

7.2. 「非認知能力」の重視度

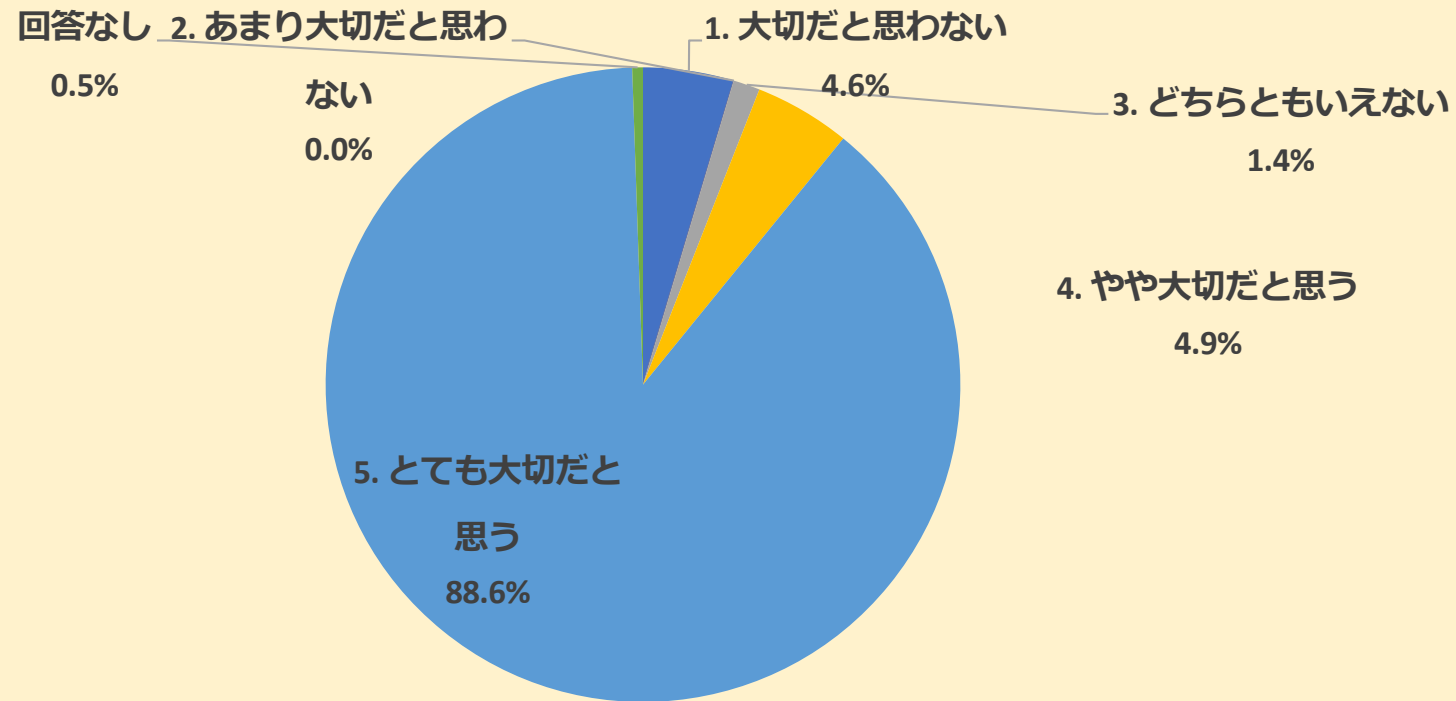


図 10. 「非認知能力」をどのくらい重視されていますか？（%）

注）「非認知能力」という言葉を「1. 知っている」と答えた回答者への質問（N=368）

「非認知能力」を「とても大切だと思う」（88.6%）または「やや大切だと思う」（4.9%）という回答が合わせて90%以上を占めていました

7.3. 「非認知能力」についての園（施設）での取り組み

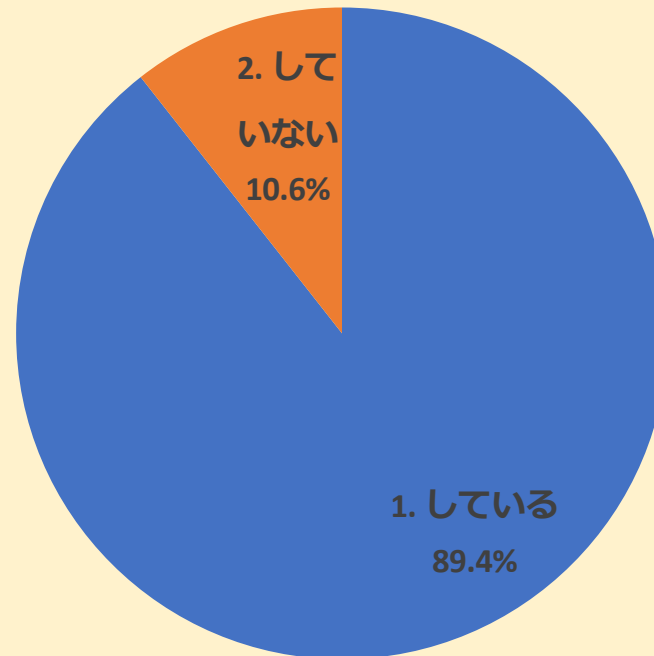


図 11. 「非認知能力」を育むための具体的な実践や取り組みをされていますか？ (%)

注) 「非認知能力」という言葉を「1. 知っている」と答えた回答者への質問 (N=368)

「非認知能力」を育むための具体的な実践や取り組みを園（施設）で「している」
（89.4%）という回答が約90%を占めていました

7.3. 「非認知能力」についての園（施設）での取り組み（しない理由）

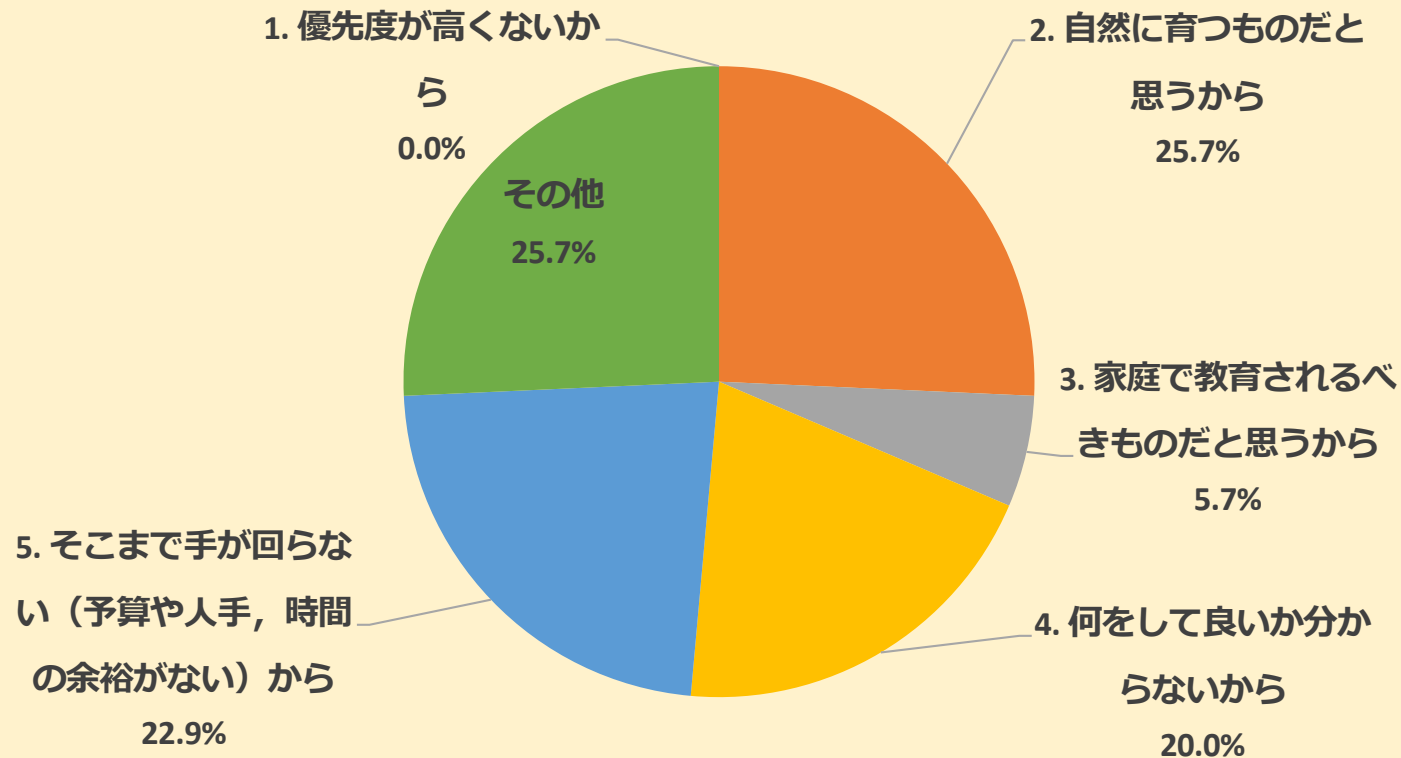


図 12. 「非認知能力」を育むための取り組みをしていない理由 (%)

注) 「非認知能力」を育むための取り組みを「2. していない」と答えた回答者への質問 (N=35)

「非認知能力」を育むための取り組みをしていない理由は、多い順に「自然に育つものだと思うから」(25.7%) / 「そこまで手が回らない（予算や人手，時間の余裕がない）から」(22.9%) / 「何をして良いか分からないから」(20.0%) でした

7.4. 「非認知能力」についての研修や勉強会の実施・参加

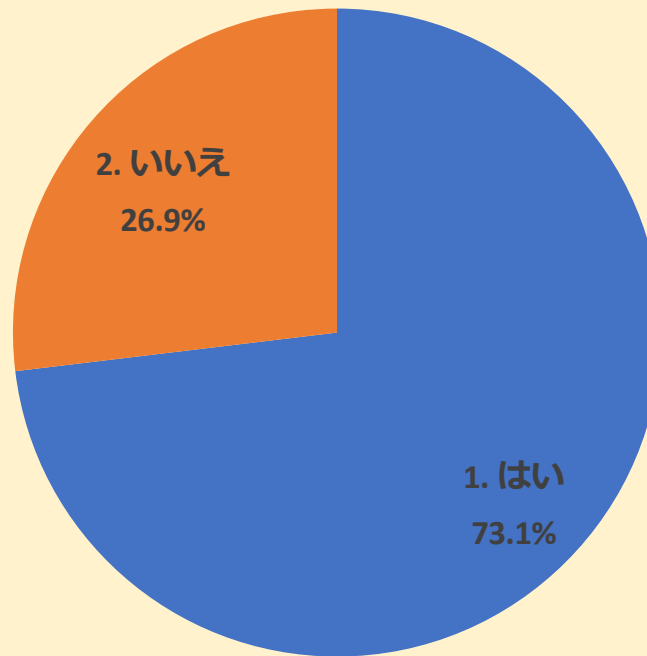


図 13. 「非認知能力」についての研修や勉強会などの実施・参加をしていますか？
(%)

注）「非認知能力」という言葉を「1. 知っている」と答えた回答者への質問（N=368）

「非認知能力」についての研修や勉強会などの実施・参加をしている（73.1%）という方が多くみられました

7.4. 「非認知能力」についての研修や勉強会の実施・参加 （しない理由）

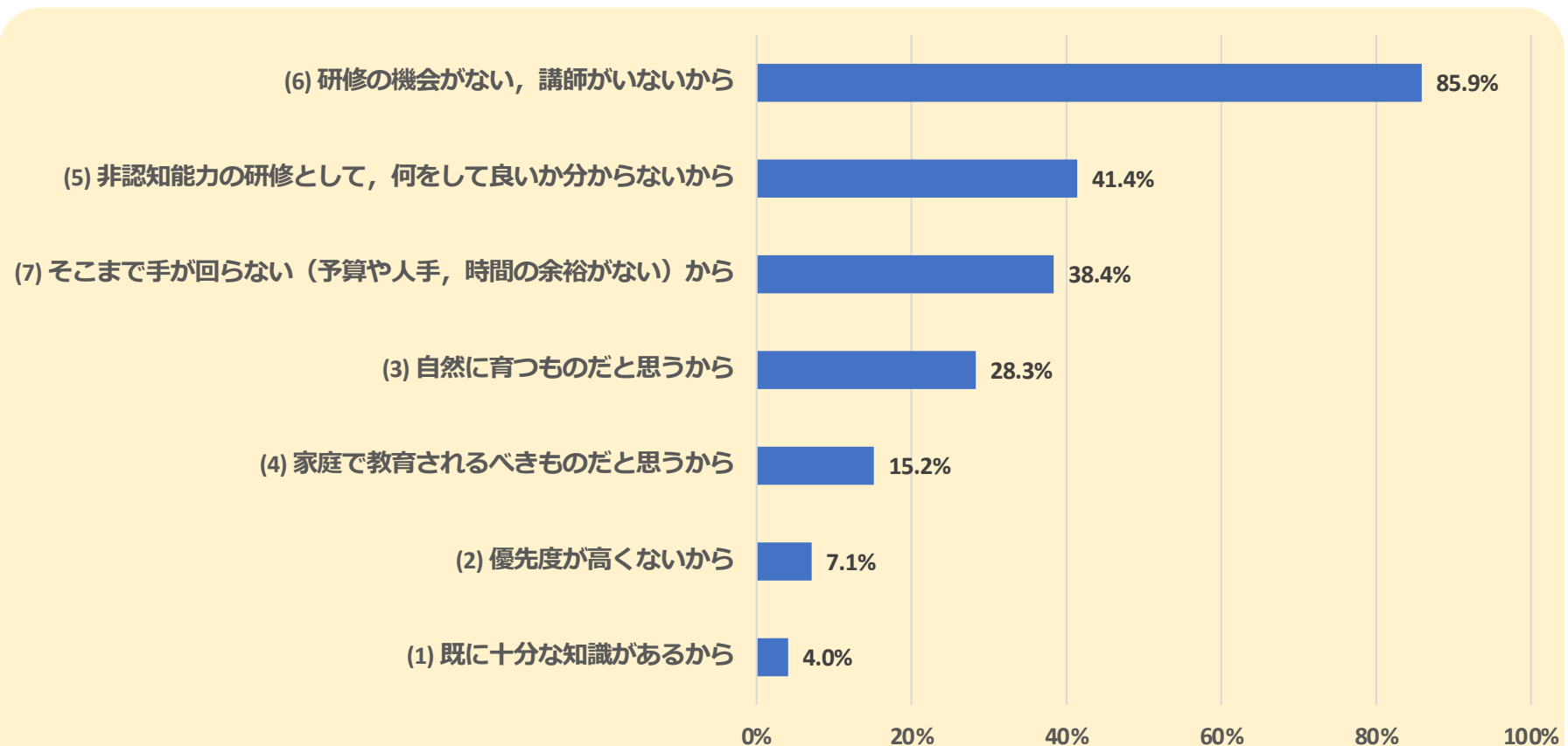


図 14. 「非認知能力」についての研修や勉強会などの実施・参加をしない理由 (%)

注) 「非認知能力」についての研修や勉強会の実施・参加をしていない（「2. いいえ」）と答えた回答者への質問（N=99）

「非認知能力」についての研修や勉強会などの実施・参加をしていない理由は、多い順に「研修の機会がない, 講師がいないから」（85.9%）／「非認知能力の研修として, 何をして良いか分からないから」（41.4%）／「そこまで手が回らない（予算や人手, 時間の余裕がない）から」（38.4%）でした

7.5.1. 資質・能力を育むためのプログラムや取り組みの実施

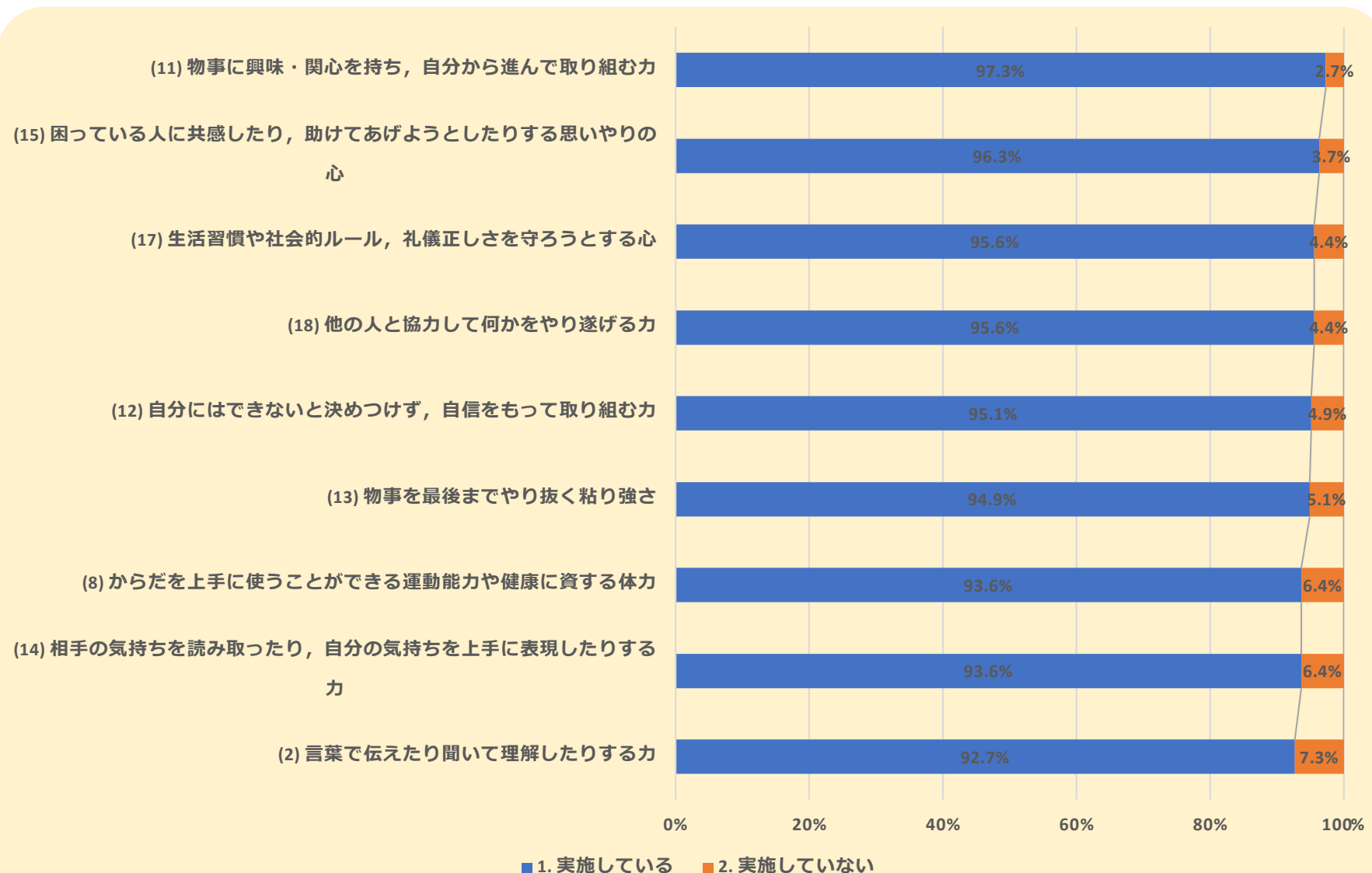


図 15-1. 資質・能力を育むためのプログラムや取り組みの実施（%）

注) すべての回答者への質問（N=409）

7.5.1. 資質・能力を育むためのプログラムや取り組みの実施

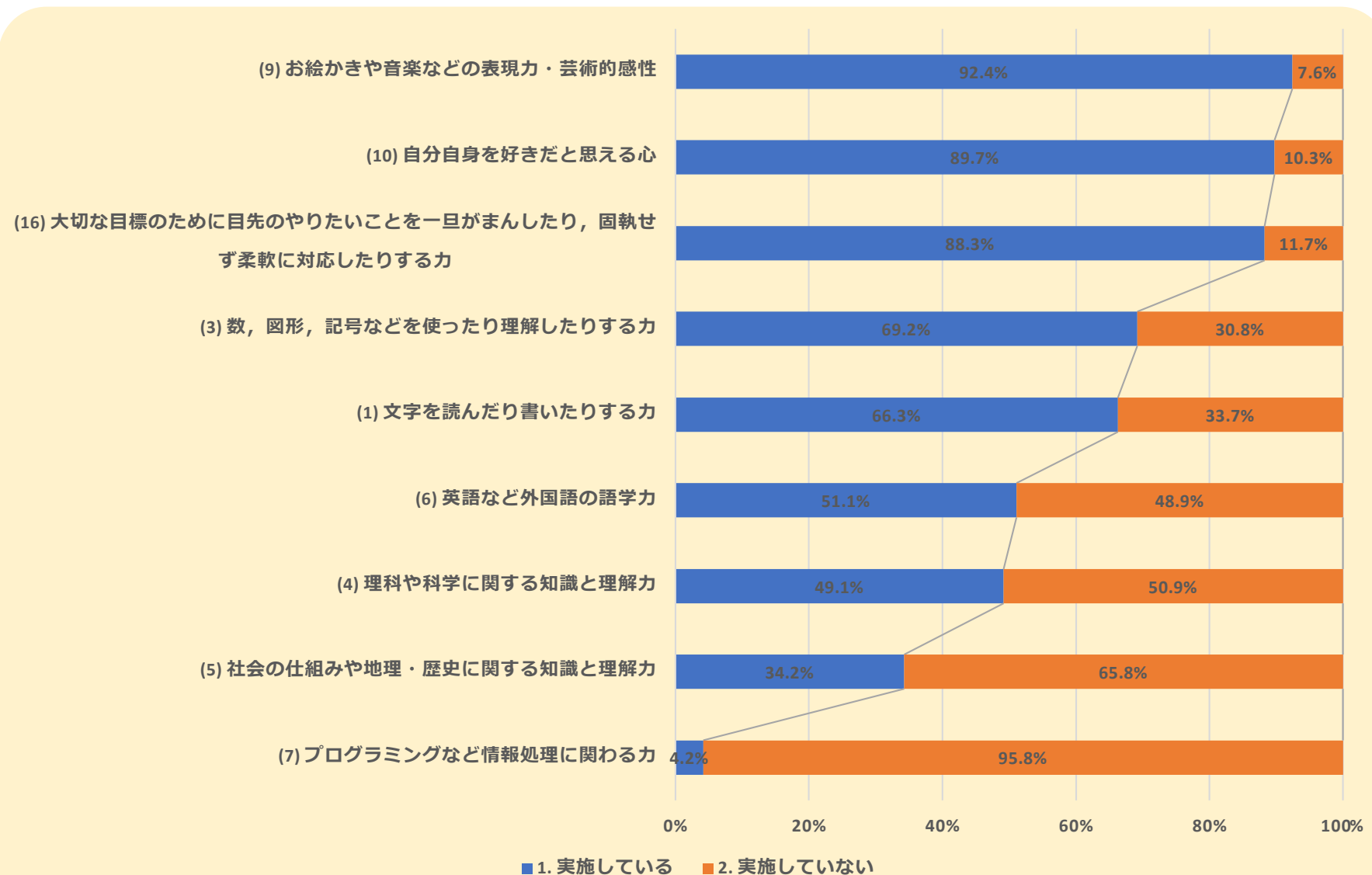


図 15-2. 資質・能力を育むためのプログラムや取り組みの実施（%）

注）すべての回答者への質問（N=409）

7.5.1. 資質・能力を育むためのプログラムや取り組みの実施

（図15-1. より）

その資質・能力を育むためのプログラムや取り組みを園（施設）で実施している
と回答した人が多い資質・能力は、順に

- 1番目「物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力」（97.3%）
- 2番目「困っている人に共感したり，助けてあげようとしたりする思いやりの心」（96.3%）
- 3番目「生活習慣や社会的ルール，礼儀正しさを守ろうとする心」（95.6%），
「他の人と協力して何かをやり遂げる力」（95.6%）でした

※これらはいずれも「非認知能力」と関連する力です

一方（図15-2. より）

その資質・能力を育むためのプログラムや取り組みを園（施設）で実施していない
と回答した人が多い資質・能力は、順に

- 1番目「プログラミングなど情報処理に関わる力」（95.8%）
- 2番目「社会の仕組みや地理・歴史に関する知識と理解力」（65.8%）
- 3番目「理科や科学に関する知識と理解力」（50.9%）でした

7.6.1. 18の資質・能力の中で特に大切にしたい力【上位5つ】

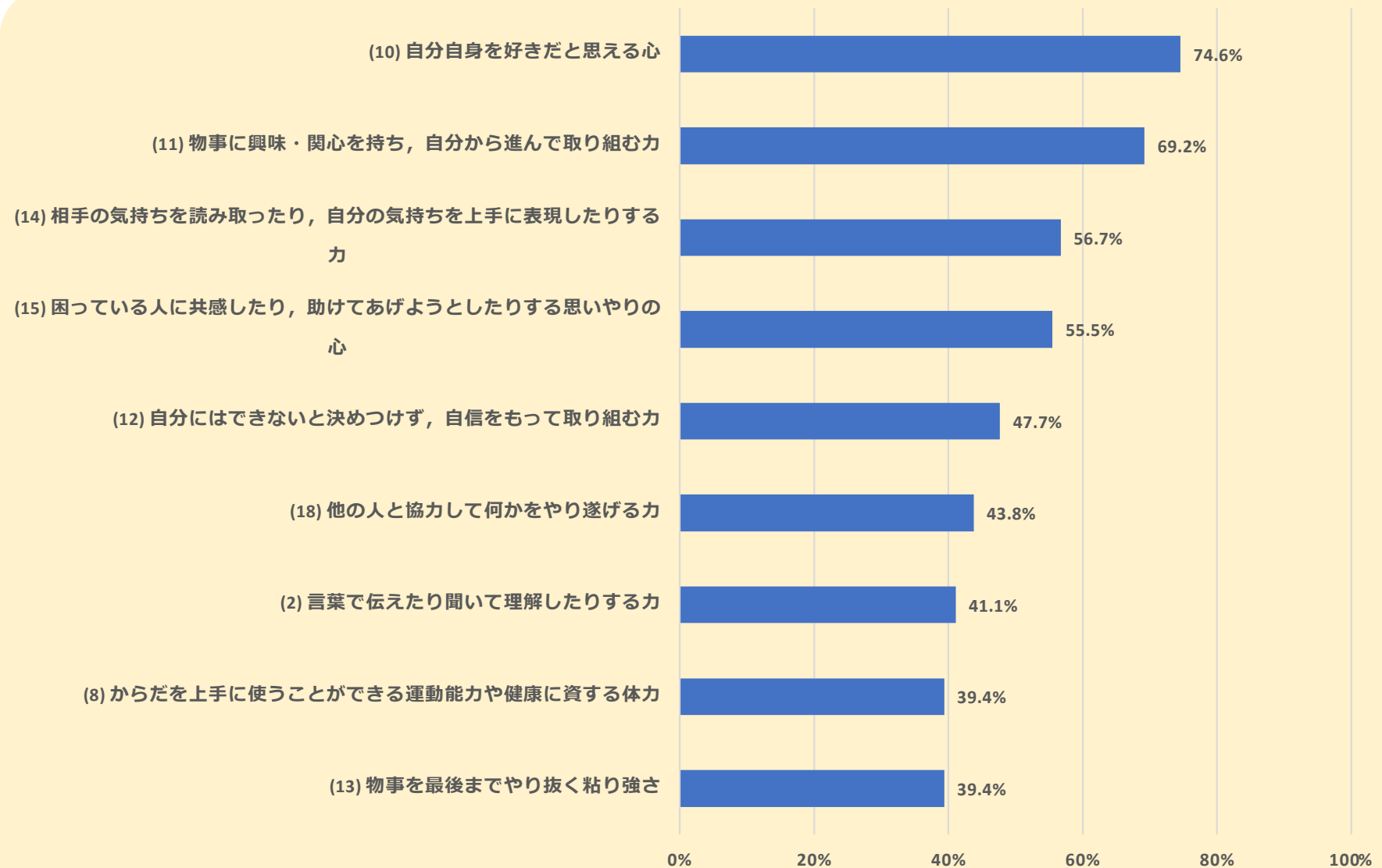


図 16-1. 18の資質・能力の中で特に大切にしたい力（選択率（％））

注）すべての回答者への質問（N=409）

7.6.1. 18の資質・能力の中で特に大切にしたい力【上位5つ】

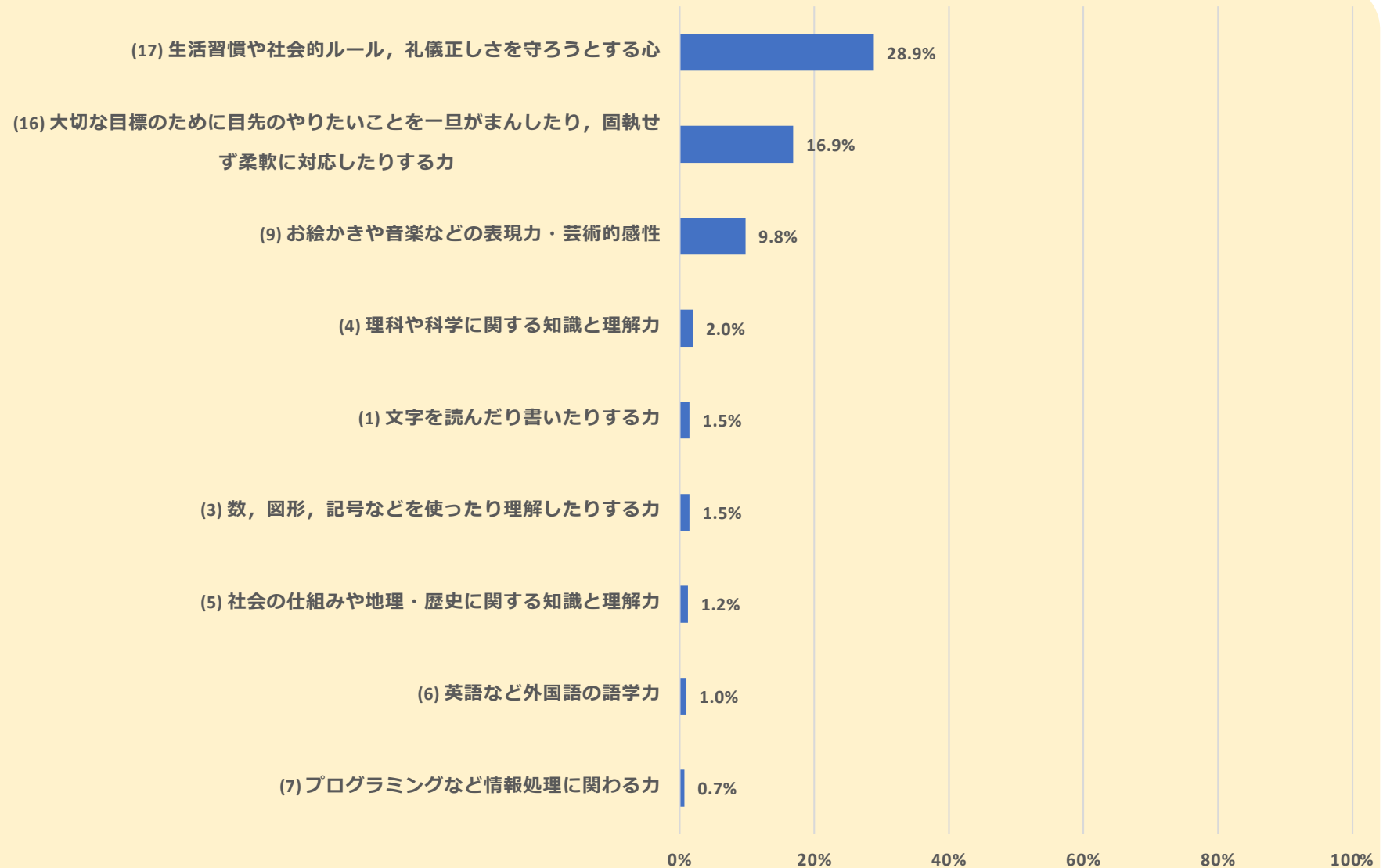


図 16-2. 18の資質・能力の中で特に大切にしたい力（選択率（%））

注）すべての回答者への質問（N=409）

7.6.1. 18の資質・能力の中で特に大切にしたい力【上位5つ】

（図16-1. より）

18の資質・能力の中で特に大切にしたい力として選択した人の割合が多いのは、順に

1番目「自分自身を好きだと思える心」（74.6%）

2番目「物事に興味・関心を持ち，自分から進んで取り組む力」（69.2%）

3番目「相手の気持ちを読み取ったり，自分の気持ちを上手に表現したりする力」
（56.7%）

4番目「困っている人に共感したり，助けてあげようとしたりする思いやりの心」
（55.5%）

5番目「自分にはできないと決めつけず，自信をもって取り組む力」（47.7%）でした

※これらはいずれも「非認知能力」と関連する力です

7.6.2. 「認知能力」と関連する7つの資質・能力の中で 特に大切にしたい力【上位3つ】

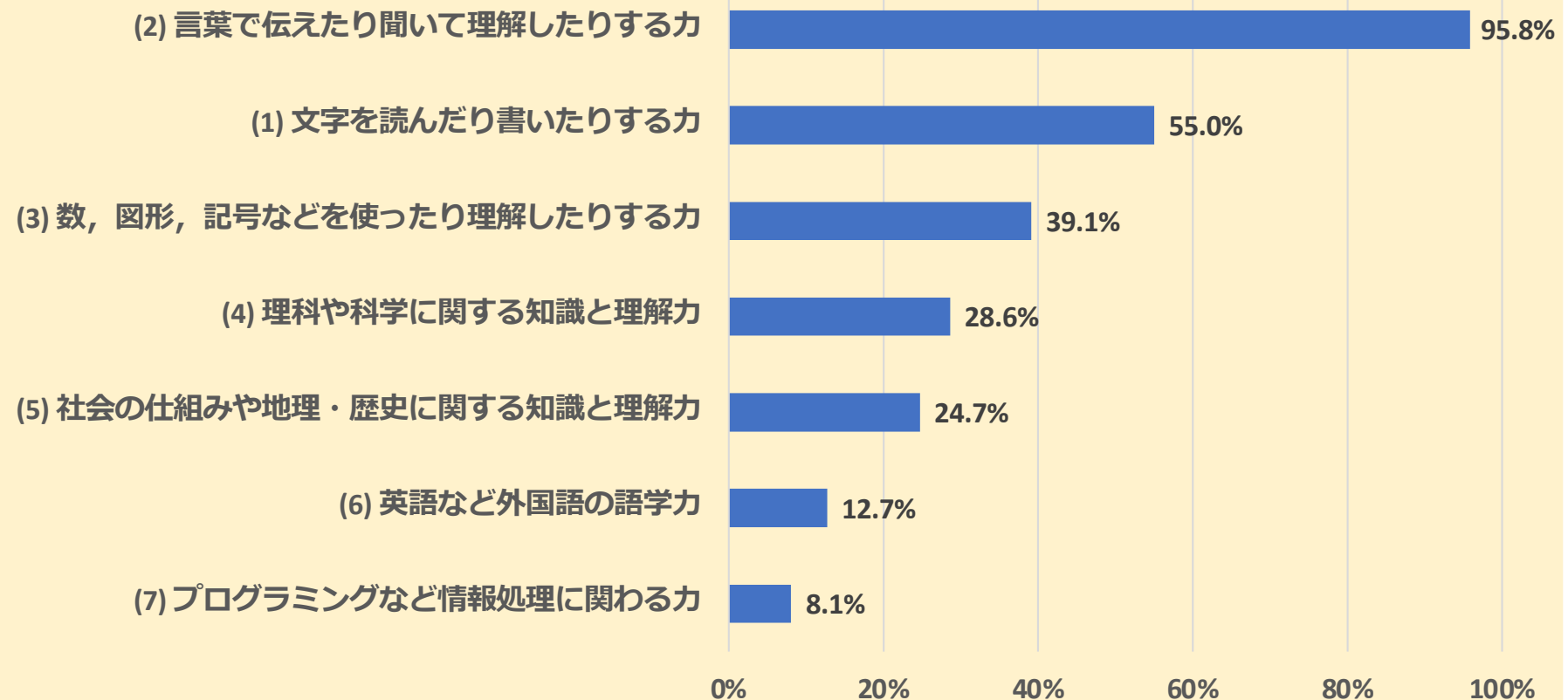


図 17. 「認知能力」と関連する7つの資質・能力の中で特に大切にしたい力（選択率（%））

注）すべての回答者への質問（N=409）

「認知能力」と関連する7つの資質・能力の中で特に大切にしたい力として選択した人の割合が多いのは、順に1番目「言葉で伝えたり聞いて理解したりする力」（95.8%）／2番目「文字を読んだり書いたりする力」（55.0%）／3番目「数、図形、記号などを使ったり理解したりする力」（39.1%）でした

7.6.3. 「非認知能力」と関連する9つの資質・能力の中で 特に大切にしたい力【上位3つ】

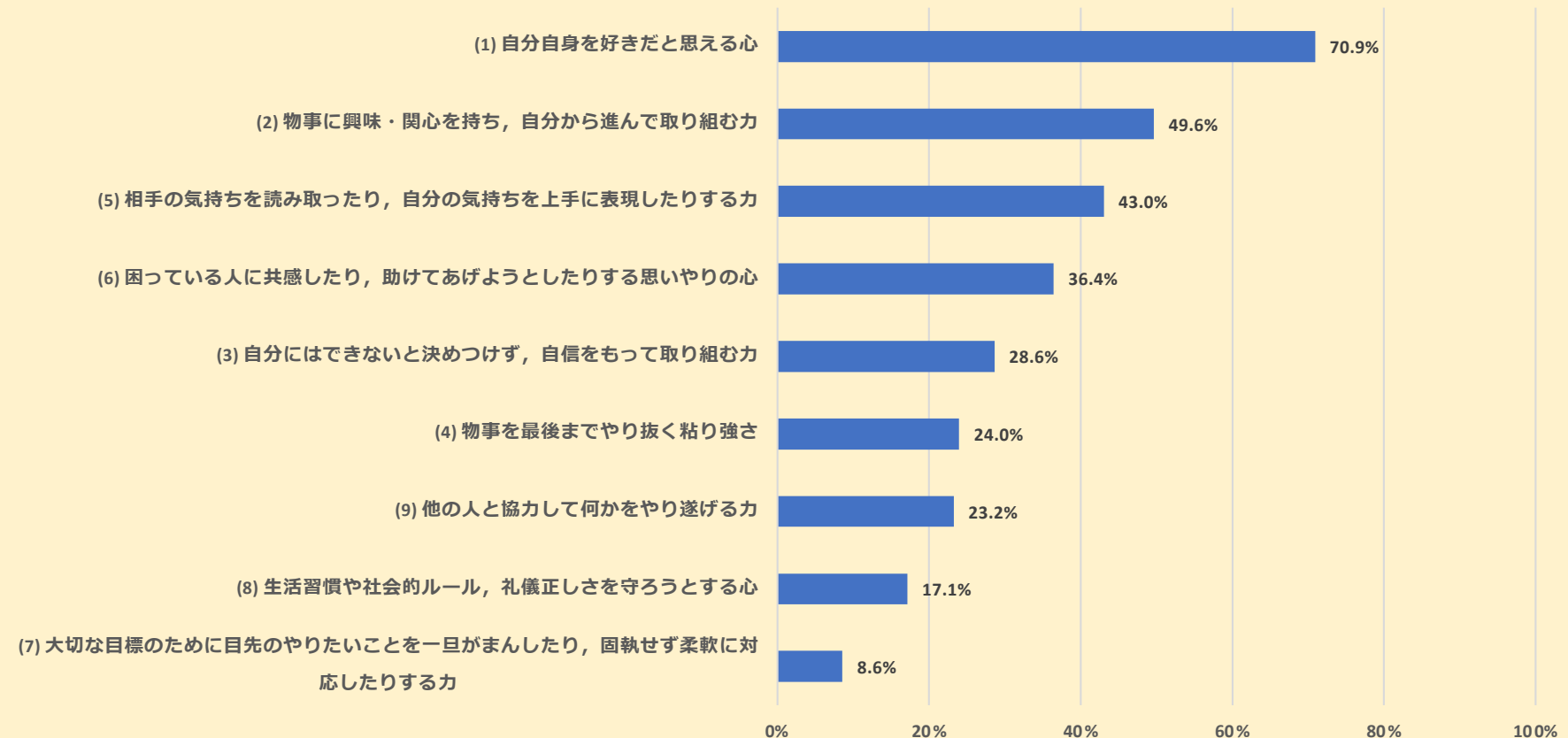


図 18. 「非認知能力」と関連する9つの資質・能力の中で特に大切にしたい力（選択率（%））

注）すべての回答者への質問（N=409）

「非認知能力」と関連する9つの資質・能力の中で特に大切にしたい力として選択した人の割合が多いのは、順に1番目「自分自身を好きだと思える心」（70.9%）／2番目「物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力」（49.6%）／3番目「相手の気持ちを読み取ったり、自分の気持ちを上手に表現したりする力」（43.0%）でした

7.6.4. 「10の姿」の中で特に大切にしたい力【上位3つ】

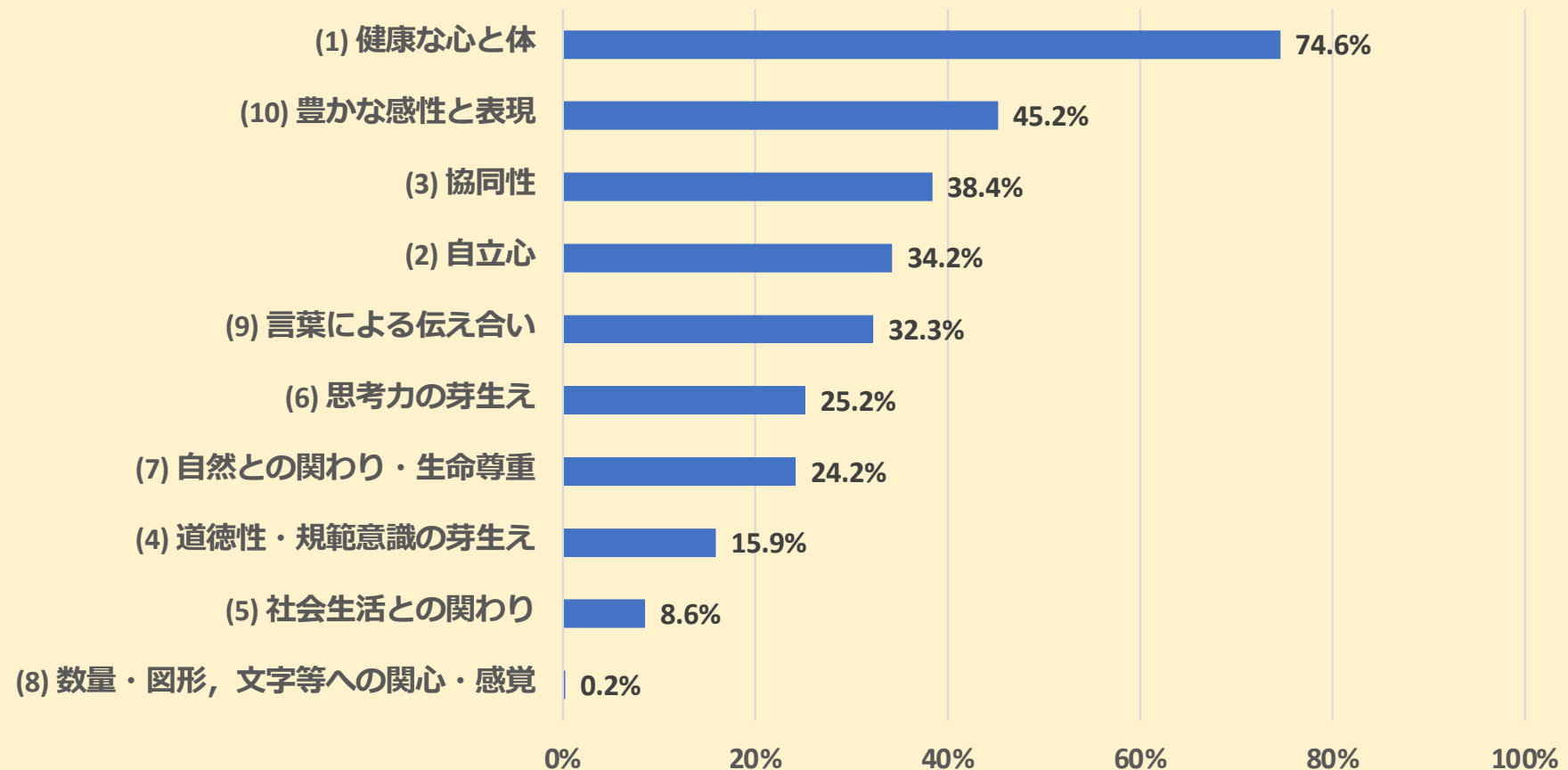


図 19. 「10の姿」の中で特に大切にしたい力（選択率（%））

注）すべての回答者への質問（N=409）

「10の姿」に含まれる資質・能力の中で特に大切にしたい力として選択した人の割合が多いのは、順に1番目「健康な心と体」（74.6%）／2番目「豊かな感性と表現」（45.2%）／3番目「協同性」（38.4%）でした

7.7. 個々の「非認知能力」の重視度・プログラムや教材へのニーズ

特に取り上げた5つの「非認知能力」

- (1)内発的動機づけ**（物事に興味・関心を持ち，自分で決めて自分から進んで物事に取り組む力）
- (2)自己効力感**（自分にはできないと決めつけず，自信をもって物事に取り組む力）
- (3)感情知性**（相手の気持ちを読み取ったり，自分の気持ちを上手に表現したりする力）
- (4)向社会性**（困っている人に共感したり，助けてあげようとしたりする思いやりの心）
- (5)セルフコントロール**（大切な目標のために目先のやりたいことを一旦がまんしたり，固執せず柔軟に対応したりする力）

「非認知能力」に含まれる資質・能力のうち，特にこの5つを取り上げて（1）重視度・（2）プログラムや活動への関心・（3）園の中での取り組み・活動・関わり方の工夫・（4）教材やプログラムに対するニーズについてそれぞれおたずねしました

7.7.1. 5つの「非認知能力」の重視度

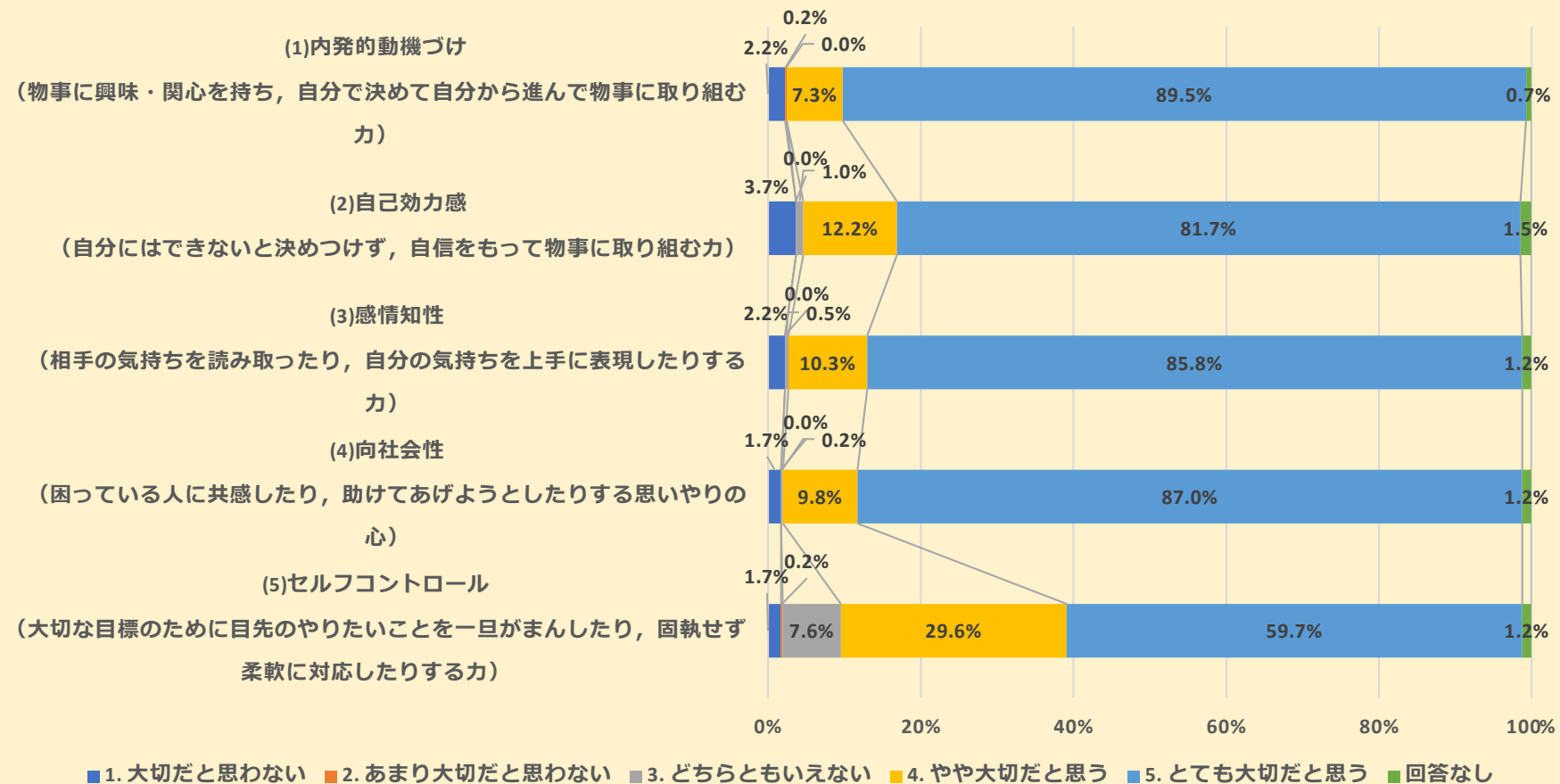


図 20. お子さんにとって, この力はどのくらい大切だと感じますか？（%）

注) すべての回答者への質問 (N=409)

5つの非認知能力についていずれも「とても大切だと思う」という回答が最も多く, 「とても大切だと思う」または「やや大切だと思う」という回答の合計が80~90%以上を占めていました

7.7.2.プログラムや活動への関心

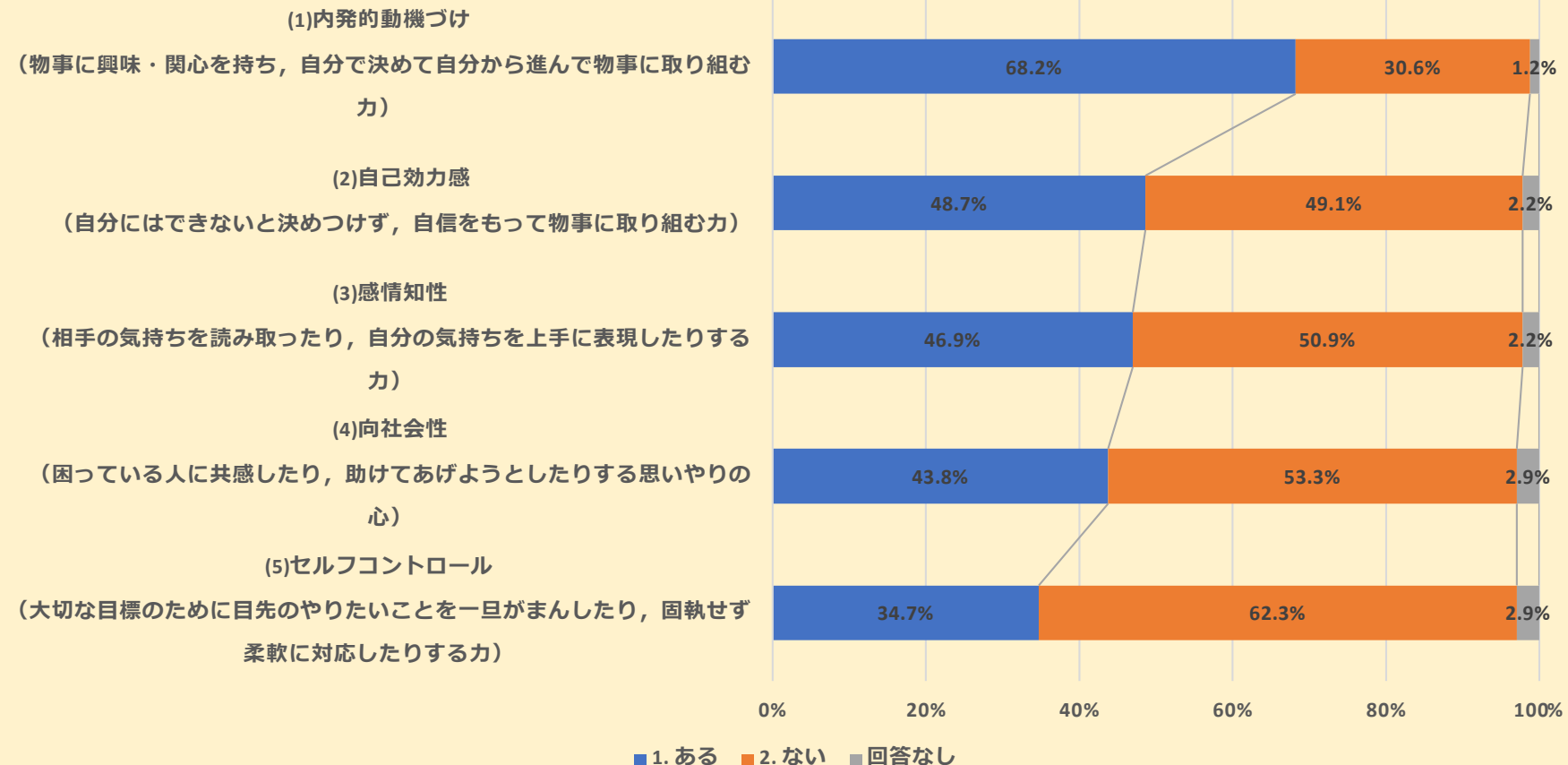


図 21. こうした力を伸ばすためのプログラムや活動について調べたり聞いたりしたことはありますか？（％）

注) すべての回答者への質問 (N=409)

その力を伸ばすためのプログラムや活動について調べたり聞いたりしたことが「ある」人の割合が多い順に, 「内発的動機づけ」(68.2%) / 「自己効力感」(48.7%) / 「感情知性」(46.9%) でした

7.7.3. 園の中での取り組み・活動・関わり方の工夫

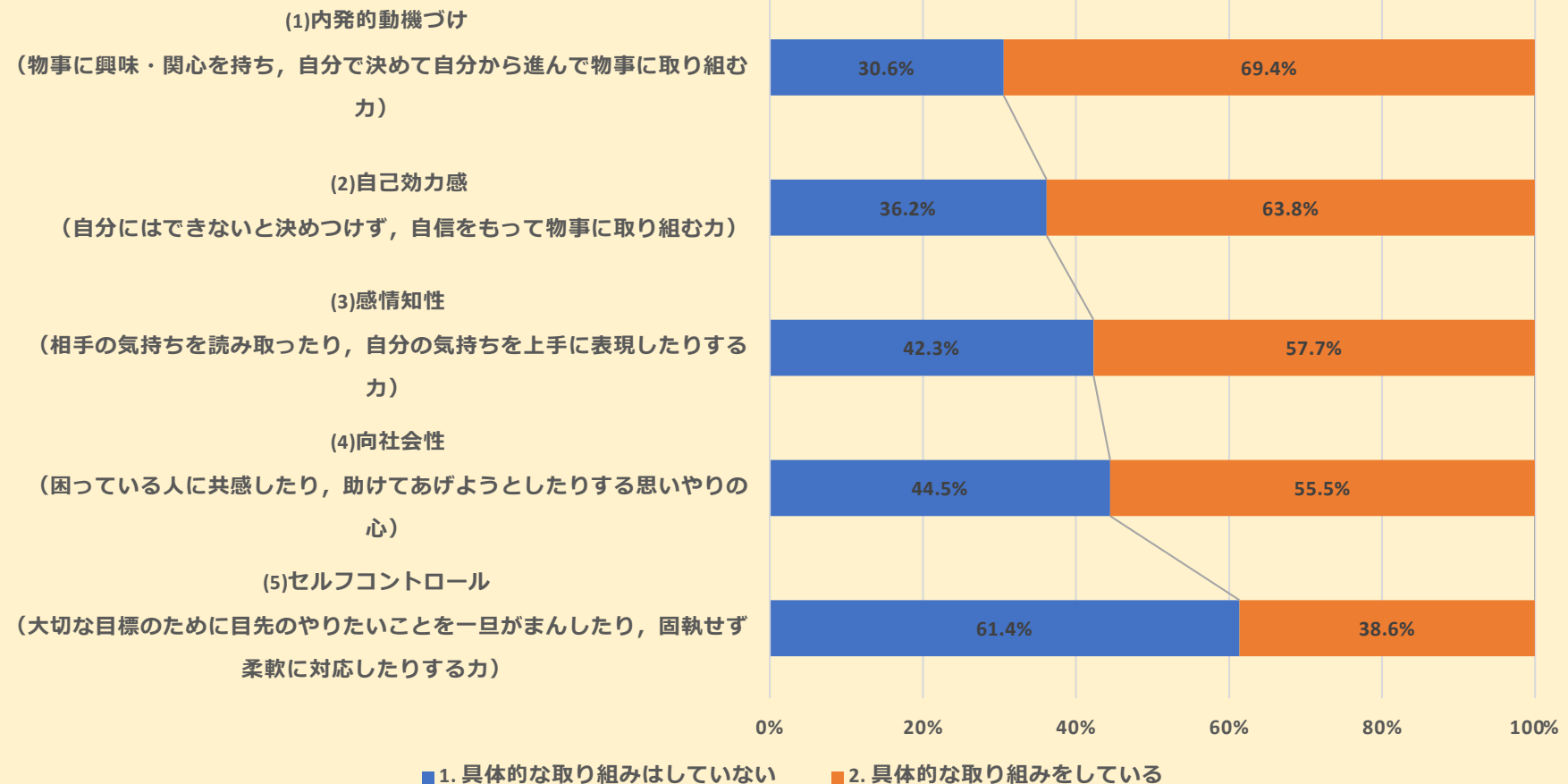


図 22. こうした力を伸ばすための具体的な取り組み・活動・関わり方の工夫を園の中でしていますか？ (%)

注) すべての回答者への質問 (N=409)

園の中でその力を伸ばすための「具体的な取り組みをしている」人の割合が多い順に,
「内発的動機づけ」(69.4%) / 「自己効力感」(63.8%) / 「感情知性」(57.7%) で
した

7.7.4.教材やプログラムに対するニーズ (1)

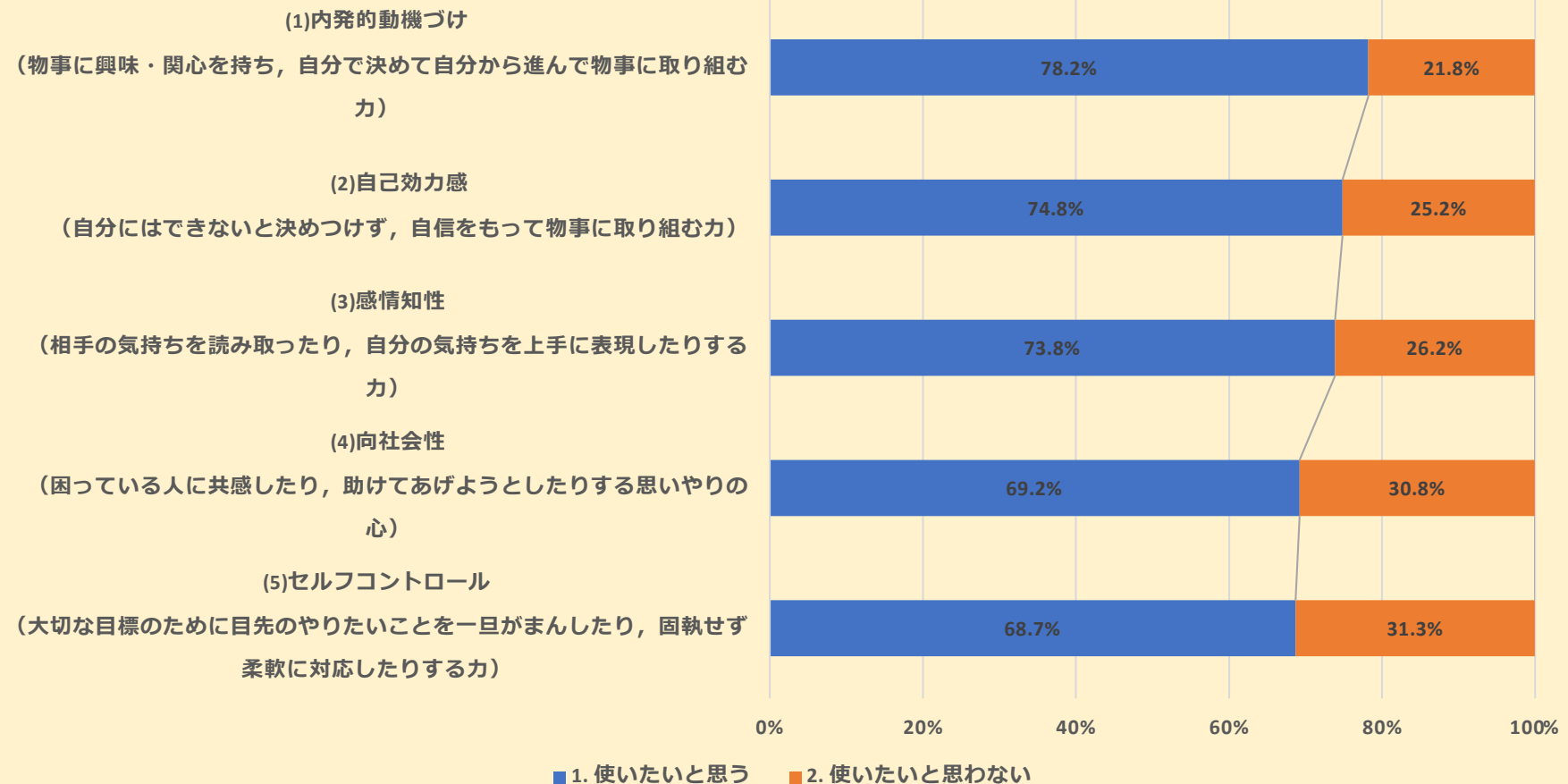


図 23. (1) 「こうした力の育ちの見とり方について学べる, 先生向けの学習コンテンツ」を使いたいと思いますか？ (%)

注) すべての回答者への質問 (N=409)

その力の育ちを助ける教材やプログラムがあったら園の中で「使いたいと思う」人の割合が多い順に, 「内発的動機づけ」(78.2%) / 「自己効力感」(74.8%) / 「感情知性」(73.8%) でした

7.7.4.教材やプログラムに対するニーズ (2)

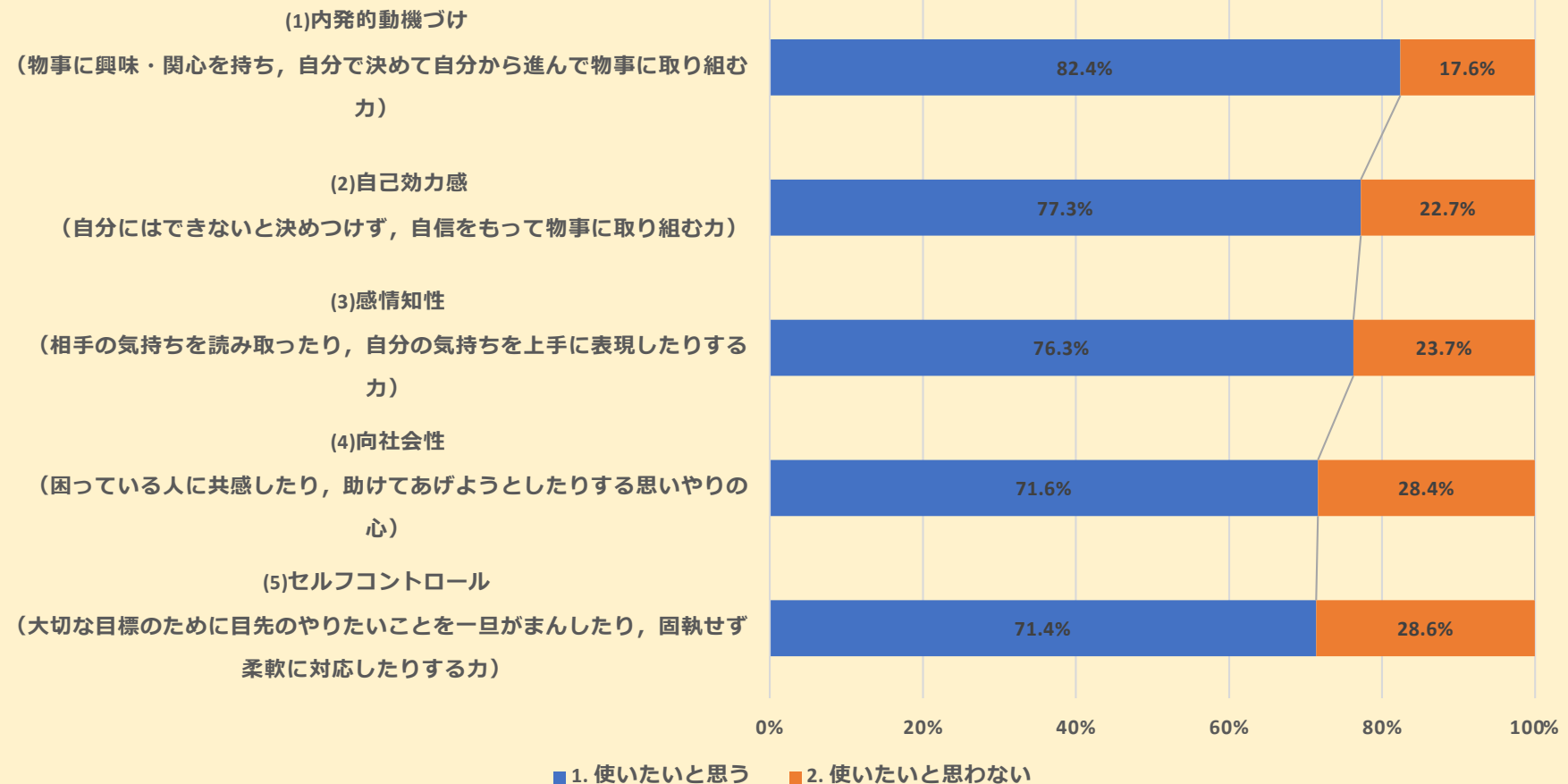


図 24. (2) 「こうした力の育ちを助ける具体的な言葉かけの方法について学べる, 先生向けの学習コンテンツ」を使いたいと思いますか? (%)

注) すべての回答者への質問 (N=409)

その力の育ちを助ける教材やプログラムがあったら園の中で「使いたいと思う」人の割合が多い順に, 「内発的動機づけ」(82.4%) / 「自己効力感」(77.3%) / 「感情知性」(76.3%) でした

7.7.4.教材やプログラムに対するニーズ (3)

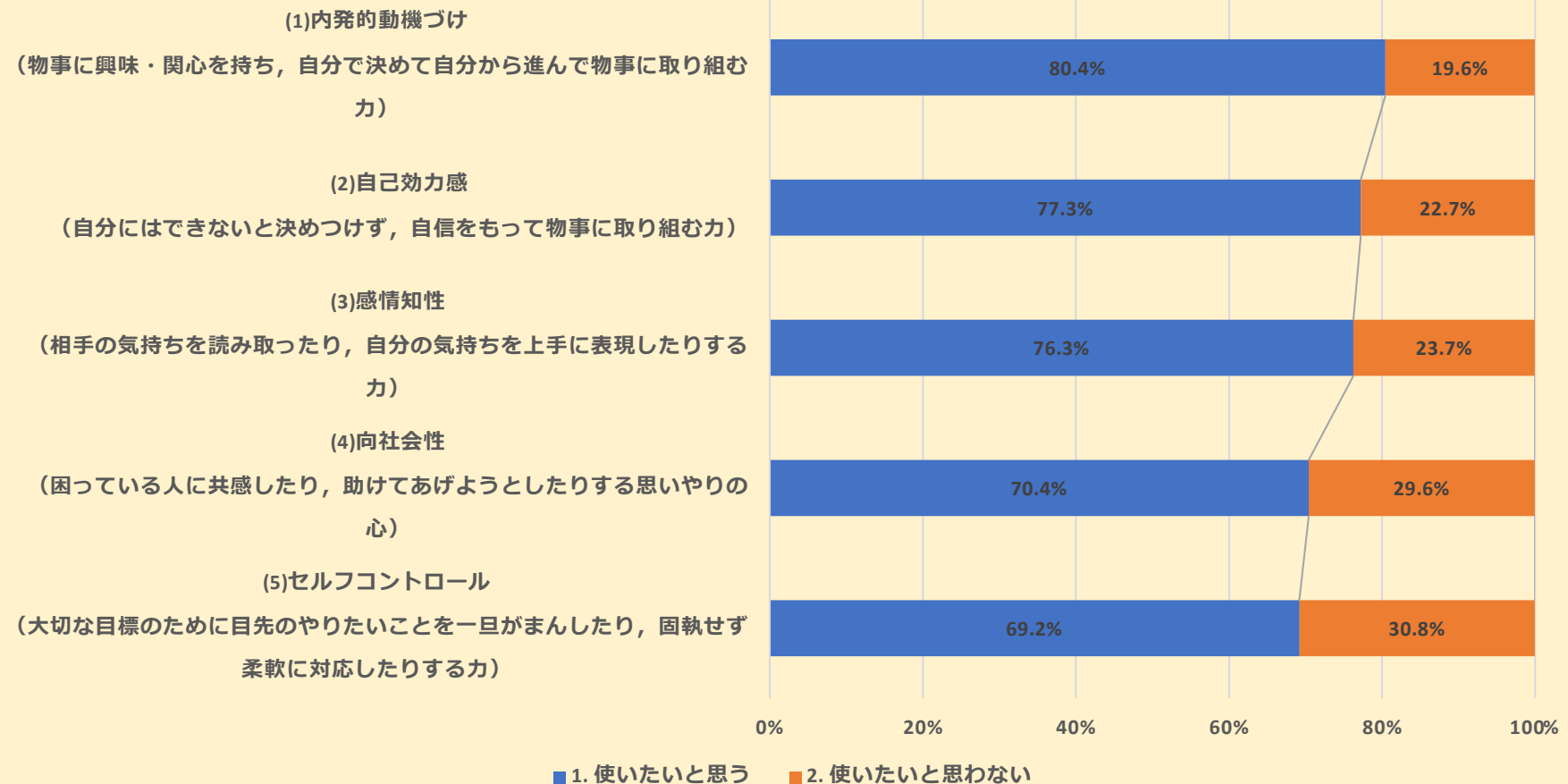


図 25. (3) 「こうした力の育ちを助ける具体的な活動案／カリキュラム」を使いたいと思いますか？ (%)

注) すべての回答者への質問 (N=409)

その力の育ちを助ける教材やプログラムがあったら園の中で「使いたいと思う」人の割合が多い順に, 「内発的動機づけ」(80.4%) / 「自己効力感」(77.3%) / 「感情知性」(76.3%) でした

7.7.5. 子どもの興味・関心に関するツール・サービスに対するニーズ

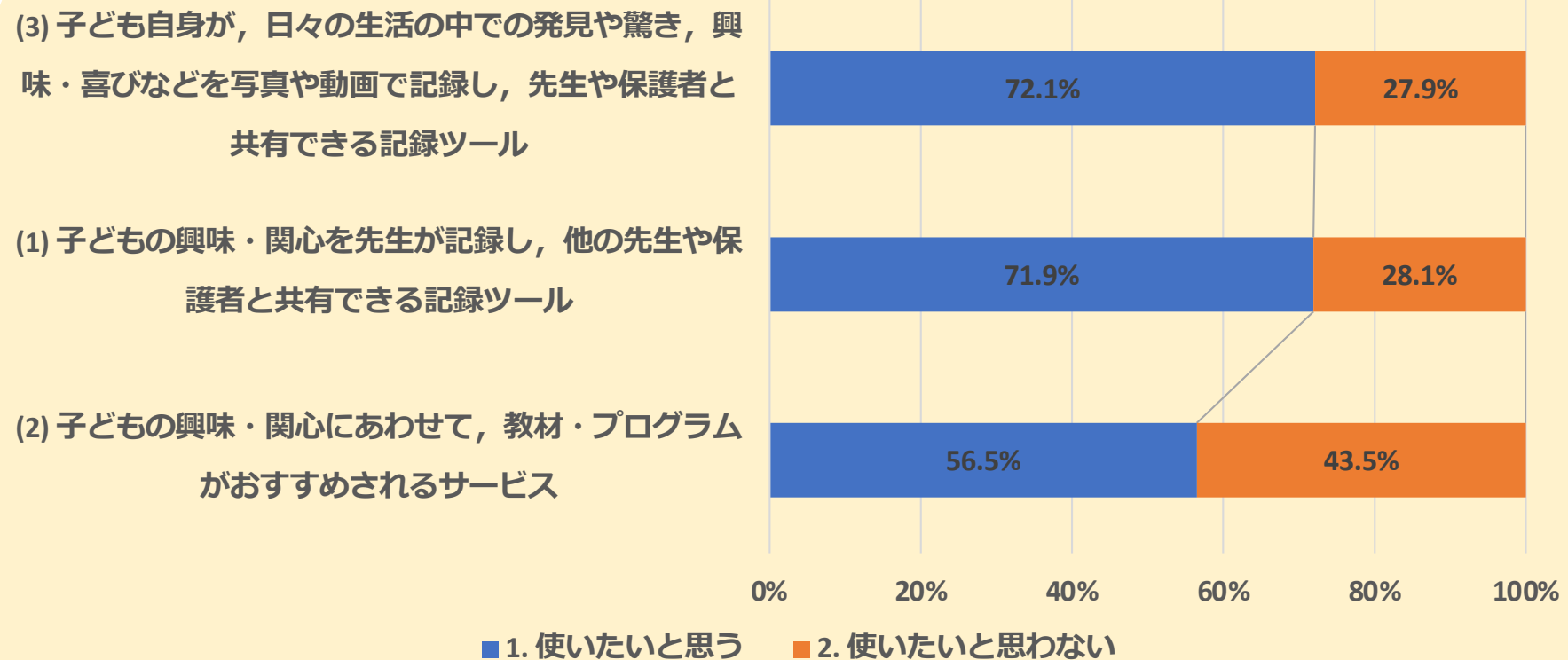


図 26. 次のようなツールやサービスがあったら園の中で使いたいと思いますか？ (%)

注) すべての回答者への質問 (N=409)

ツールやサービスがあったら園の中で「使いたいと思う」人の割合が多いのは、「子ども自身が、日々の生活の中での発見や驚き、興味・喜びなどを写真や動画で記録し、先生や保護者と共有できる記録ツール」（72.1%）、次いで「子どもの興味・関心を先生が記録し、他の先生や保護者と共有できる記録ツール」（71.9%）でした